

ときがわ町地域福祉計画推進委員会、地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会  
会議録

会議の名称	令和4年度 第2回ときがわ町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会
主な議題	○アンケート調査・団体ヒアリング結果について ○素案について ◇地域福祉計画 ◇地域福祉活動計画 ○今後の予定について
開催日時	令和4年10月31日(月) 13時30分～16時00分
開催場所	就業改善センター 3階 集会室
会議録の公開(非公開・一部非公開)とその理由	公開
出席委員	野口本和委員長、正木秀雄副委員長、石川加代子委員、 <del>村田陽子委員</del> 、高山隆史委員、宮寺祥仁委員、村田朝子委員、西澤夫美子委員、村田陽平委員、 <del>矢作正紀委員</del> 、 <del>小池猛委員</del> 、岡野正一委員、小池裕子委員、谷野裕子委員、岩田利二委員
事務局	福祉課：山崎課長 蓮沼 社会福祉協議会：桑原事務局長
<p>審議等内容又は概要</p> <p>1 開 会 司会(福祉課 山崎課長)</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 正・副委員長の選出 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会の会長・副会長が選任され、地域福祉計画推進委員会の正副委員長も兼ねていただくよう、委員全員から了承される。 委員長 (野口 本和) 副委員長 (正木 秀雄)</p> <p>(2) あいさつ 野口本和委員長 委員長就任あいさつ</p> <p>(3) アンケート調査結果・団体ヒアリング結果について 事務局(蓮沼)より、別紙資料(「ときがわ町地域福祉計画アンケート調査集計表(小</p>	

学校5年生)」、「ときがわ町地域福祉計画アンケート調査集計表(中学校2年生)」、「ときがわ町地域福祉計画アンケート調査集計表(保護者)」、「団体ヒアリング結果について」、「第3期ときがわ町地域福祉計画(案)」を用いて概略説明(約40分)

- \* 前回アンケート調査は小学校5年生と中学校2年生を対象に実施したが、今回は、一般住民としての意見を反映させるため、その保護者へもアンケート調査を実施。

#### (4) 素案について

##### ・地域福祉計画

事務局(蓮沼)より、別紙資料「第3期ときがわ町地域福祉計画(案)」を用いて説明(約20分)

- \* 社会福祉法の一部改正(令和3年4月1日施行)により新たに地域福祉計画で取り組むよう努めなければならない事項が追加となった。(第107条第1項第5号:地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備に関する事項)

ときがわ町において地域の創意と独自性を生かしながら、第107条に掲げる事項について具体的な内容を検討するとともにその他必要な事項を加えて計画に盛り込んだ。

#### 【質疑及び意見】

委員1: アンケートの回収率が60%台では低い。アンケートに回答しなかった人の意見が計画に反映されていない。アンケートの回収率の向上のために工夫が必要だと思う。もしかしたら、回答できなかった人は支援が必要な人かもしれない。

委員2: アンケート回収率が6割台は、現実的に妥当な数字だと思う。そこから住民が何を考えどんな課題を抱えているのか、行政が認識(推察)すれば良いのではないか。

事務局: 前回調査では、学校で授業中に子供達へアンケートに回答してもらい、回収したので100%若しくは100%近い回収率だった。しかし、今回は保護者アンケートを追加して調査を行い、各家庭で回答し郵送してもらったため回収率が下がってしまった。

委員3: 我が家にもアンケート調査が届いたが、子どもは家で先にアンケートを宿題のようなつもりで回答していたが、親は仕事で忙しくなかなかアンケートに記入できなかったため、他の人の中には子どもは回答していたのに、保護者がアンケートに回答していなくて返信できなかった人もいたかもしれないと感じた。

委員 4 : 今回保護者アンケートを実施し、一般の若い人の意見も聞いて良かった。

事務局 : アンケートに回答した人の内容を基礎資料として計画を見直している。アンケートに回答しなかった人が問題を抱えている可能性があることも忘れてはいけないと思うので、次回計画の更新時にアンケート回収方法を検討したい。

委員 1 : 町の子ども・障害者・高齢者に対する予算配分は？町の他の会議に委員として出席しても、高齢者に関心や意識が多く向いていると感じる。将来に目を向けて、どうしたら子どもや成年に対して支援ができるかも考えていく必要がある。

事務局 : 町全体の予算は55億～60億くらいで推移している。そのうち23%～25%を民生費が占めている。また、介護保険特別会計の予算は約12億となっている。

委員 5 : ネットの時代になって、直接ほしい情報を拾うことができるが、まだ高齢者でない保護者のアンケートの回答で、「広報ときがわ」を見て情報を得ている人が多い事がわかり、文字で訴えること、活字で周知することのわかりやすさや大切さを感じた。

事務局 : この会議は、地域福祉に関する基本的な考え方を定める「地域福祉計画」と、地域福祉活動の具体的な内容を定める「地域福祉活動計画」の2本立てとなっている。この第3期の地域福祉計画については、令和3年度からどのような手法で策定を進めていくか協議が始まっている。経緯について説明すると、「第1期ときがわ町地域福祉計画」は地域懇談会を開催し、住民の方から多くの意見をいただいたが、その9割の意見は公共交通に関する不満で本来の地域福祉計画策定の目的から大きくずれる結果となってしまった。このような反省点を踏まえ、「第2期ときがわ町地域福祉計画」では住民懇談会の方式を取らず、アンケート調査を実施して策定した。

#### ・地域福祉活動計画

社会福祉協議会事務局（桑原局長）より、別紙資料（「第3期ときがわ町地域福祉活動計画」）を用いて説明（約15分）

\*P12「基本目標1 支え合い・助け合いの人づくり」の「施策項目1 地域福祉の担い手の育成」の『（1）地域福祉を支える担い手の確保』の項目へ「・・・男性の社会参加のきっかけづくりにも努めます。」の文言を追加した。

\*P15「基本目標1 支え合い・助け合いの人づくり」の「施策項目2 ボランティア

活動の推進」の『（２）ボランティア体験の実施』について、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、家でできるボランティアを実施し、災害時に避難する時に靴をしまう袋を縫った。この袋は献血に来てくれた人へ配布した。また、牛乳パックでイスを作ったり、高齢者へ暑中見舞いを書いて送ったりした。

\*P17「基本目標1 支え合い・助け合いの人づくり」の「施策項目4 地域福祉に携わる団体や福祉サービス事業者との協働」の『小地域福祉ネットワークづくり』について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により人が集まるサロンのものは中止となった。町の委託事業だった「ふらっと広場」の委託がなくなったので、それに代わる「ごきげん体操」や「ラジオ体操第2プロジェクト」を始めた。「ごきげん体操」は現在町内8ヶ所で40分間運動指導士による体操を行っている。また、「ラジオ体操第2プロジェクト」は健康づくりと外出支援を目的に現在「生き生き活動センター」と、「ウェルシアときがわ店」、「明覚駅」の3ヶ所で朝8時半から行っている。

\*P22「基本目標3 安全・安心な仕組みづくり」の「施策項目1 情報提供・相談体制の充実」の『（１）広報による情報発信』について、町からの委託で生活支援コーディネーターが地域課題の把握や既存資源の活用、新たな資源の開発等を行っているが、併せて地域の人材の掘り起こしも行っていきたい。

\*P25「基本目標3 安全・安心な仕組みづくり」の「施策項目3 日常の見守り・助け合い」の『（３）生活困窮者への支援』について、食料支援として定期的にフードドライブを今年の9月から始めた。各家庭で余っている食材を提供してもらい、生活困窮者支援をしていく。賞味期限2週間以上ある物を受入れている。県からもカレーとごはんが社協へ届いている。実際に生活に困っている方に広く食材を届くようにしていきたい。

#### 【質疑及び意見】

委員6：以前は愛育班員が20軒に一人いたが、今は班員の勧誘を断られてしまうことも少なくないので、男性も班員に入ってほしいと考えている。健康問題を記事にしたプリントを配付しているが、男性の独り暮らしのお家には、男性の班員が訪問してお届けするのが良いと思う。（地域福祉に）一番大切なのは、隣組の存在だと思う。

委員5：65歳以上は人口の40%を占めるとあるがその分布状況と、ラジオ体操第2プロジェクトの山間部（大野・櫛・女鹿岩・雲河原など）での実施は？

事務局：大野などの山間部では、他市町村に住んでいる子どもが買い物や通院の協力をしている家も少なくない。社会福祉協議会でも買い物支援等を行っているが、利用されているのは明覚・玉川地区の方が殆どで、大野・平は利用者が

いない。行政に頼るのではなく、身内で何とかしようとする気持ちも強いのではないか。ラジオ体操第2プロジェクトは、地域の皆さんのやる気次第で実施は可能である。社会福祉協議会ではラジカセやCD・テープ等も提供している。また高齢者の分布については、相対的には若者が流失した山間部の方が高い傾向にある。

委員2：地域福祉の基本計画の中に町の特徴をアピールする内容を盛り込むことになっているので、基本計画のP79に『互助』という言葉を入れてもらった。この『互助』は、少子高齢化が進み孤立化が進む地域の中で、共助という大きな集団でなくても、せめて隣組などの小さな小集団でお互いに助け合うために厚生労働省で言い出した重要な言葉である。このため活動計画の中にも明記してほしい。また、最近「ヤングケアラー」も問題になっているので、その言葉も明記してほしい。

事務局：検討させていただく。

委員7：町内4校で福祉教育を実施できたとのことで、子ども達が身近かに体験し肌で実感できた事はとても良かったと思う。

委員4：基本計画P50で、「・・・キーパーソンとなる人づくりを進めます。」とあるが、これはとても良い視点だと思う。

委員1：社会福祉協議会でフードドライブをやっていた事を始めて知った。ごはんがきちんと食べられる事が大事。困っている人に実際に食材が届くようにもっと広報に力を入れてほしい。

#### (5) 今後の予定について

次回第3回の策定委員会は11月22日(火)午後1:30~とし、同じ場所で行う。後日、開催通知をあらためてお送りする。

#### (6) その他

特になし。

### 4 閉会 正木副委員長

《16時00分終了》